

## 15 . 用語集

ここでは、このマニュアル内で使用されている用語のうち、共通認識が必要な用語について説明をしています。

災害に関係する用語についても説明をしています。

	用語	説明	解説
3	三つのT	Triage(トリアージ)、 Transportation(患者搬送)、 Treatment(緊急治療)	災害医療の緊急対応の3原則で、Triage(トリアージ)、 Transportation(患者搬送)、 Treatment(緊急治療:これを2番目に 持ってくることもある)からなる。
B	B災害	生物毒災害のこと	
C	CPR	心肺蘇生:cardio pulmonary resuscitationの略	心肺機能の停止時に行う緊急処置(同じ略語であるが、全く別の もので、インスリン生合成過程の副産物CPR:Connecting peptide immunoreactivityを意味することもある)
	critical incident stress debriefing (CISD)	惨状ストレスに遭遇した患者 への対応の一つ	惨状ストレスに遭遇した患者対応の一つとして考えられている治 療法として試みられているもので、話を聞いて、精神的な負担を減 ずる方法。消防、軍隊等で行われることが多い。
	C災害	化学災害、中毒災害のこと	
D	DMAT	米国の災害時医療派遣チーム	disaster medical assisstant team米国における災害時の医療 班派遣システムの一つ。
	DIS	地震防災情報システム	地震災害時における被害の概要をすぐに計算する我が国のシス テムである。内閣府に所属し、震災対策の充実・強化をはかるこ とを目的として阪神淡路大震災の反省のもと作られたもの。
F	FEMA	米国危機管理庁	米国危機管理庁、連邦緊急管理庁などと訳される米国の公的機 関。Federal Emergencyy Management Agencyの略。連邦レベ ルで規模災害時等に対処し、復旧までsupportする機関。カー ター大統領の指示により設立。
N	NPO/NGO	非営利団体・組織/非政府 団体・組織の略	災害(医療)では、重要な部分を担う。1998年特定非営利活動促 進法(NPO法)が成立した。
P	preventable deaths	予防できる死	適切な医療対応がなされれば死なないですむ、すなわち予防で きる死亡のこと。具体的には実際の災害時に、多数発生した死 亡数の内の、この予防できたと考えられる死亡者数を意味する。 災害医療の目的として、この死亡者数を最小とすることが重要 で、そのためには、種々の面からの医療対応、中でもトリアージ を含めた「3つのT」は重要である。
	PTSD	posttraumatic stress disorderの略で災害に強く関連 する重要な心的外傷の一つ	posttraumatic stress disorderの略で、強い精神的外傷にみら れる最も重要な精神症状で心的外傷の一つ。従来より欧米では 自然災害、戦争体験、事故、強盗や強姦などに遭遇した後、しば しばみられ治療対象とされていた。わが国では、1995年の阪神・ 淡路大震災、東京地下鉄サリン事件後、多発し、注目されるよう になった。心的外傷を受けた直後に生じる急性反応(急性スト レス反応(acute stress reaction or disorder; ASR/ASD)とは区 別され、診断基準上は、1ヶ月後以上みられる遅発性(外傷経験 から1,2週間ないし数ヵ月たってから発症してくる遷延反応)のこ とをいう。種々の精神的症状:体験状況の再現、悪夢、不安、憂う つ感、無欲、無関心、無力感、易怒、罪悪感、絶望感、不眠、錯乱、 幻覚、心因性健忘、に加え、動悸、発汗など自律神経病状もみら れる。抗不安薬、抗うつ薬など薬物療法、種々の精神療法がなさ れる。予防としての早期からのCISD(critical incident stress debriefing)が試みられることがあるが、その是非に関しては、意 見が確定していない(精神的には否定的な意見も多い)。

S	START(方式)	トリアージ方式の一つ	Simple Triage And Rapid Treatmentの頭文字をとったもので、特に病院前においても簡単に評価ができる方法として現在推奨されている。
W	walking wounded	災害時の負傷者の内の、歩行可能な人	トリアージ上は、ほとんどは最軽症の緑タグの適応となる。地震等の大災害発生時は、負傷者の大多数を占めるため、円滑な対応が必要である。
あ	アンダー トリアージ	トリアージの際、適切な基準よりも優先度を低めに判定する不適切な判断のこと	トリアージによって負傷者の医療対応の優先順位をつける際に、適切な基準よりも優先度・緊急度を低めに判定すること。その反対をオーバートリアージというが、アンダートリアージの方がより緊急性の高い、重症例を見落とす可能性が出てくるので、より好ましくない(避けるべき)と考えられる。
	安否情報	無事かどうかの情報	災害時の被災者が、無事かどうかの情報であるが、災害時は、情報システムが輻輳し、通常の連絡手段が全く機能しないことが多いため、社会不安を増大させる要因となり、安否情報システムの役割は重要である。
い	遺体安置		大災害時には、多数の死傷者が発生する。死者への対応も重要であり、またトリアージで救命不能と判断され、黒タグを装着される瀕死の患者にも個人の尊厳を重視した対応が必要である。阪神淡路大震災では、遺体の安置場所の不足、死体検案等の遺体への対応体制が不十分で問題を残した。
お	オーバー トリアージ	トリアージの際に、適切な基準よりも優先度を高めに判定すること	トリアージによって負傷者の医療対応の優先順位をつける際に、適切な基準よりも通穿度・緊急度を高めに判定すること。不正確なトリアージの一つであるが、重篤な患者の見落としは防げる。その反対をアンダートリアージという。
	汚染	体が汚れること	身体等がよごれが付着して、染まることであるが、災害医療の観点からは放射性物質・化学物質・細菌等の微生物によって汚れることにより、身体に悪い影響をきたす(可能性がある)こと、あるいは周囲へ広がって、害になることを意味する。また感染源が伝播し広がることも汚染と呼ぶ。
き	災害拠点病院	災害時に中心となって医療を行う地域毎に指定されている病院	阪神淡路大震災における災害医療体制の不備、特に災害時医療を提供する医療施設側の対応・準備が不十分であったことへの反省から、厚生労働省の指導のもと1996年から開始された体制。現在500以上の施設が、地域災害医療センターとして指定され、その内の特に各県単位で中心となる施設を基幹災害医療センターとして、指定されている。
	危機管理	危機一般に対する対応・体制	危機一般に対する対応・体制等であるが、災害時にも重視される。なお危機とは、危険な状態の起きうる状態のことと解釈されるが、実際に大災害等が発生した後の対応も危機管理に含めることが多い。
	机上訓練(シミュレーション)	災害(医療)対応の訓練の一つ	災害(医療)対応の訓練の一つで、主な形としては1カ所に集まり、対応を種々の観点からねるもの。比較的施行容易で、多くの観点から検討ができる利点がある。これに対して本格的な訓練は、総合防災訓練と呼ばれることが多い。
く	クラッシュ症候群	大量の骨格筋が長時間圧迫を受けたための障害により引き起こされる重篤な症候群	四肢・大腿等の骨格筋が大量に・長時間の圧迫等を受けることにより虚血等により筋障害が引き起こされるとその結果、局所・全身に異常を呈する症候群。局所の浮腫・壊死等や、全身症状としては、腎不全、その他の多臓器障害をきたして、高い死亡率をきたす。早期よりの血液透析・血液浄化法、集中治療により多

			くは救命可能と考えられている。以前より一部では、知られていた疾患であるが、特に阪神淡路大震災で多発し、注目を浴びた。挫滅症候群、圧挫症候群とも呼ばれる。類似疾患として、血管外科領域のMNMS、整形外科領域のcompartment syndromeがある。
こ	広域・災害救急医療情報システム	災害医療情報システムの一つ	平常時は救急医療施設からの情報収集等を行い、災害時は、総合的な情報収集・医療の提供を行うための情報システムで、ほぼ全国的に確立されてきている。本システムは、医療情報専用のシステムで、大地震の際には、地震防災情報システムDIS等と協力して対応することが期待されている。
さ	災害	大規模な異常な出来事によって、人・社会が大きく被害を受けること	一般的には、異常な出来事によって、人・社会が被害を受けることであるが、災害医学の観点からは、巨大な破壊的な出来事によって人と周囲の環境に極めて重大なかつ急激な変化が発生し、外部からの大規模な援助が必須となるほどの非常事態をいう。なお、急激な変化ではなく、洪水の一部やかんばつ、難民問題のように徐々に生じるものもある。
	災害医療	医療面からみた災害に対する学問	医療面からみた災害の予防、発生直後の緊急医療対応、災害によって発生するその後の中期・長期的健康問題などの解決を目的とした学問である。幅広い医学分野、たとえば、救急医学、外傷外科学、外科・整形外科学、小児科学、精神医学、伝染病学、栄養学、その他の全ての臨床の専門医学分野、疫学、公衆衛生、社会医療学、地域医療学、国際的視野での健衛生学などの分野との協力のもとに行う(WHOによる)に加え、医療以外の他の分野の災害援助機関、団体などとの協力も含まれる学問、研究である。
	災害救助法	大災害に際しての対応を定めた法律	1947年(昭和22年)に施行された法律で、大災害に際して政府が地方自治体、日本赤十字社、その他の団体及び国民の協力を得て、緊急に被災者への援助・社会の秩序の保持にあたる。都道府県知事が、救助を行うこととなっており、救助の種類には、収容施設(仮設を含む)、炊き出し等による食料・飲料水の供与、衣服・寝具等の生活必需品の供与、医療・助産の補助などを行う。また、日常空の計画・施設の整備に努めることになっている。
	災害サイクル	災害を一つのサイクルと考える概念	災害対策を考える上で、考えるべきとされる概念。災害発生直後(発災直後)の対応のみならず、その後の亜急性期、慢性期の対応に加えて、平常時(静穏期)にも対策を準備するべきとの考えである。すなわち、静穏期は、次の災害発生の前までの時期と考え、全体を災害サイクルと名付けられている。
	災害時情報システム	災害情報は災害時重要で、情報収集、連絡、その他に関し、各種の災害システムがある。	災害時の情報システムは、1)災害情報の収集、2)被災情報の連絡、3)その他、に分かれる。災害情報の収集の方法としては、幾つかの公的体制(広域災害救急医療情報システム、DIS、SPEEDI、etc)もあるが、一般民間人が利用できるものではテレビ、ラジオが中心となる。被災情報の伝達・連絡に関しては、民間用としては、電話、Internetがあるが、災害時には、携帯電話も含め、多数の同時使用による輻輳のため使用不能となる。災害用には、災害時優先電話(公衆電話も含まれる:ピンク電話は除く)、災害時伝言ダイヤル(番号は、171、以降は、指示に従う)が有用と考えられる。
	災害弱者		災害時に最も不利な状況におかれる人のことで、通常CWAP(シ

		ーワップとよぶ、小児、女性、高齢者、貧困層/病人)のことをいう。災害時には、特別な手当を(前もって)準備しておく必要がある。
災害時優先電話	災害時でもある程度発信が優先される電話	災害時でも一般家庭の電話よりも、ある程度発信が優先される電話で公衆電話(ピンク電話は除く)にも適用される。
災害対策基本法	災害から国土・国民を守るための対策を定めた基本的な法律	1962年(昭和37年)に施行された法律で、災害医療を含めた災害から国土・国民を守るための対策を定めた基本的な法律である。防災計画の策定、災害予防、災害応急対策、災害復旧、防災に関する財政金融措置、その他等からなる。
災害対策本部	災害時に対策を決定し、指揮をとる本部	大災害発生時の対策・指揮をとるところで災害発生直後に設立される(通常は、新設される)部門であるが、災害の規模、種別、等によりその役割・内容は大きく異なる。また、設置される場所・所属等も多数となる可能性がある。JCO臨界事故では、政府、県庁、市町村、各防災対策機関、対応にあたる医療施設、JCO工場等で設置されたとされる。
災害の分類	災害を分類したもの	災害の分類は、種々あるが、最も簡単なものは、1)自然災害、2)人為災害、3)両者が混ざった複合型とされる。この他、急性期型と慢性型、都市型と地方型等の分類もされることがある。
災害マニュアル	災害時に用いられるマニュアル	医療施設等、災害医療に関連する部門は、全て平時より準備し、災害訓練等に用いておくことが必要である。
災害用伝言ダイヤル	災害時安否情報に用いられる留守番電話風のシステム	被災地内加入者の電話番号を活用した留守番電話風のシステムで、番号は171+以下指示に従う。災害時にのみ利用可能で、輻輳の可能性は少ないが、知名度はまだ低い。
し 地震	地震動により起こされる自然災害のうちの代表的なもの	地球内部でのエネルギーの蓄積の結果、局地的に、しかも急激に解放されて弾性波動を生じる現象で、そのエネルギーの一部が大地を振動させる(地震動)。地震の規模はマグニチュードで表し、揺れの強度(とその広がり)の規模は、地点毎の震度で表示する。我が国周辺は、4つのプレート(ユーラシアプレート、フィリピン海プレート、太平洋プレート、オホーツク(北米)プレート)からなる、世界でも最もプレートの込み合った所である。プレートの境目をトラフ(海溝)といい、太平洋岸で現在、地震発生に関与する可能性が高いとして最も問題となっているものとして、南海トラフ、相模トラフ、駿河トラフ、などがある。
自然災害	自然の大きな異変によって地域の自然破壊と多数の死者・傷病者等の被害をもたらすもの	人為(的)災害と対比される言葉である。自然災害の原因となる現象は、地震、風水害、等多々あるが、自然災害のなかには、急激な変化の他、早魃のように緩徐に起こるものもあり、また地震の際に見られる不適切な建築物による被災度の増大や自然林の過剰代採などのために生じる風水害・砂漠化のように発生・増悪化に人間の関与が極めて大きいものもある。これらには、人為(的)災害としての要素も加えるべきとの意見もある。
死体検案	死体について医学的に調べることのひとつ	大災害時には、多数の死傷者が発生する。阪神淡路大震災では、死体検案体制が不十分(検案する医師の不足)であり、死者及び遺族への個人の尊厳を重視した観点からみると問題を残した。日本法医学会では、その反省のもと、体制の整備に努めている。
人為(的)災害	人あるいは社会の活動によって起こされた大規模な災害	人あるいは社会の活動によって甚大な被害を人的・環境に引き起こすもので、NBC災害とも密接に関係する。工業災害、毒性物質による災害、伝染病、紛争、交通災害等。
震度(階級)	地震の揺れの強さを示すもの	我が国で用いられている地震の揺れの強さを示すもので、段階は震度0～7まで。震度5と6は、強弱に分かれており、全体で10段

			階になっている。以前は人の感じ(体感震度)に基づいていたが、1996年度の気象庁の見直しにより、現在は震度計の計測値に基づく計測震度になっている。
そ	総合防災訓練	災害の訓練方法の一つ	大規模な災害(医療)訓練をいう。医療施設での訓練では、多くは、発災から、被災患者搬送、トリアージ、緊急処置、その他を行うものである。多数の参加者が加わることによりなされるが、準備・経費等大きな負担がかかることから、頻回に行うことは困難である。また儀式的・形式的となる可能性もあり、注意が必要である。
	損害予想/被害想定	災害による損害・被害の予測	災害発生以前、発生直後に行われる災害による損害・被害の予測。我が国では、東京直下型地震、東海地震、南海地震等で、現在予測されており、また主に地震発生直後の予測方式としては、DIS(Disaster information system)等が開発されている。その他、原子力災害時の想定としては、SPEEDIが設置されている。
た	耐震建築物	地震に耐える構造の建築物	更に地震の振動を減らして地震への強度を高めるためにゴムやバネなどを用いた建築物は、免震構造と呼ばれる。
	タグ	災害時に用いられる下げ札	下げ札、荷札等のことであるが、災害時は、トリアージタグのことを意味することが多い。
つ	つなみ・津波	地震や火山の爆発などにより海面に高い波が作られること	地震や火山の爆発などにより海面に高い波が作られ、そのため海岸に大きな人的・物的被害を引き起こす。代表的な我が国の被災した例としては、最近では1993年北海道南西沖地震で奥尻島で死者200名以上と多数の死者が発生したが、歴史的には1896年明治三陸地震、1707年宝永東海・南海地震、1498年明応東海地震で死者2万人以上とされ、関東大震災を除くと死者数の最も多い地震災害の形をとる。
て	鉄砲水	きわめて短期間に発生する局地的な洪水	洪水の一種で、通常特に局地的な豪雨によって生ずる河川の急激な水量増加により土砂等を伴いながら堤防を決壊するなど、極めて急激に発生する局地的な洪水。我が国でしばしばみられる。諸外国で多い長期間を経過して推移の上昇する洪水とは、大きく異なる。
と	トリアージ	多数の負傷者等を緊急度・重傷度に応じて優先順位を決定する	元来は、えり分け、分類するというフランス語から来た言葉で災害医療でしばしば用いられる用語。フランス語読みでトリアージュともいう。災害医療上は、多数の負傷者・疾病患者が、同時発生した際に、救急医療の現場などで患者の緊急度・重傷度に応じ、医療体制・設備を考慮し、治療や搬送先の優先順位を決定する。このために用いられる用紙(タグ: triage tag)がある。トリアージを行う責任者をトリアージオフィサーとよび、医療施設では医師が行うことが多く、災害現場では救急救命士が担当することが多い。この考えを広げて、特に欧米では、非災害時でも、複数の患者が同時に救急外来を受診したときに優先順位をつけることもトリアージと呼び、その際は、責任看護師があたることが多いようである。
	トリアージタグ	トリアージに用いられるタグ	
は	バイオテロ	生物毒を用いたテロ	
	パニック	群集の混乱や個人の混乱状態	災害や予想外の悪いできごとにあつた際に起こる群集の混乱や個人の混乱状態をいう。
	ハリケーン	熱帯低気圧の発達したもの	北大西洋西部・北太平洋東部に発生する熱帯低気圧(米国・北アメリカ大陸におけるもので、我が国の台風)の発達したもの

	阪神淡路大地震	兵庫県南部地震による災害	1995年1月に発生した兵庫県南部地震による災害で、死者6000名以上と第2次世界大戦後の我が国で最大の死者を伴った。負傷者4万名以上とされる。死者の約90%は、家屋の崩壊による即死と推定されている。
	半数致死量	半数を死滅させる中毒物質や放射線の量	人間・動物の半数を死滅させる中毒物質や放射線の量でLD50と示す
ひ	非政府団体	NGOと略す。私的な組織である	NGOと略す。政府組織とは異なる、私的な組織であるが、国際的組織として大きな組織もあり、災害対応にも活躍している。特に公的な施設・機関が活動しにくい分野において重要な役割を担う。 我が国でも医療部門においてもAMDA、MeRUなどがある。
	避難	危険を避けて他の場所へ逃れること	危険を避けて他の場所へ逃れることであるが、原子力災害時は、住民の避難計画の一部に加えられている。なお1999年の東海村臨界事故では、350m以内の住民は、近傍に避難を指示された。
	病院災害対応マニュアル	病院・医療施設における災害時の医療対応マニュアル	病院・医療施設における災害時の医療対応マニュアルとして、特に災害拠点病院においては災害時の円滑な医療対応を可能とするために、準備することが望まれている。
ふ	輻輳	1カ所にももの等が集まり、混乱すること	災害時に問題になることとしては、電話のラインの輻輳により、実際は利用できないことがしばしばみられることである。
	フラッシュバック	flash back、(主に悪い昔の)記憶・状況を突然思い出すこと	昔の悪い記憶・状況を突然思い出すことで(体験状況の再現)あり、災害被災者にもしばしばみられる。PTSDの症状の一つ。覚醒剤中毒でもしばしばみられるとされる。
	プリオン	感染性病原体の一つ	感染性病原体で、DNA、RNAも認められないたんぱく質のみによる感染をきたす疾患である。牛の海面状脳症(狂牛病)やひつじ・やぎのスクレイピー病、人のクロイツフェルトヤコブ病の病原体とされる。有効な治療法は現在ない。災害医療の観点からは、牛と人の関係が問題となっている。
ほ	ボランティア	無報酬(あるいは低報酬)で、自発的に活動すること	ボランティアとは、志願者という意味で、無報酬(あるいは低報酬)で、自発的に活動すること。災害時は、重要な役割を担う。
ま	マグニチュード	地震全体の規模を表す数値	震源のエネルギーの大きさを示す。マグニチュード1の違いは、約30倍である(マグニチュード2の違いで1000倍)。関東大震災はマグニチュード7.9、兵庫県南部地震は7.2であった。地震被害の大きさ・広がり、種々の要因によって影響されるが、一般的にいて我が国にあてはめるとマグニチュード7程度では、一つの県を占める規模、マグニチュード8では、数県にまで拡大すると考えられている。なお、我が国では、気象庁マグニチュードと国際的標準のモーメントマグニチュードが用いられている。
	マニュアル	災害時の(医療部門等の)各部門の動きをガイドするもの	マニュアルとは、災害医療の観点からは、災害時の医療部門の動きをガイド・指示するもので、ガイドラインとほぼ同様の意味で用いられる。阪神淡路大震災では、医療施設としてマニュアルを作成していたところは、極めてわずかであるが、現在では、災害拠点病院のアンケートでは、70～80%で準備していると考えられる。
よ	養生	汚染拡大を防ぐために、壁面・床等に防護体制をとること	一般の医学的な意味では、健康の増進を図ること・病気や病後の回復を良くすることであるが、災害医療、特にNBC災害のような汚染を伴う災害時には、建物・乗り物内での周囲環境へ(汚染した患者や物品から)の汚染拡大を防ぐために、壁面・床等にカ

			バー・ビニール・壁紙等をかけて防護体制をとることも用いられる。
ら	ライフライン	上・下水道、電気、ガス、電話などの都市生活に重要なシステム	直訳すると命綱(いのちづな)であるが、災害時には、(現在の都市での)生活に欠くことができない水道(上水道・下水道の両者)・電気・ガスなどの重要な供給システム、広い意味では電話も含める。特に都市で、地震、洪水等の広範囲の地域を直撃する大災害では、長期間のライフラインの途絶が起こりうるので、重要である。
る	ロジスティックス	災害時の物流の調達・管理システムのこと	Logistics、日本語では兵站(へいたん)と訳される。一般的には、物流の調達・管理システムのこと(材料調達 生産 在庫管理 販売、等)であるが、災害時は、災害時の緊急支援体制としての後方支援を幅広く意味し、有効な災害時活動には必須の重要項目である。
わ	ワクチン	生体に対し感染性疾患に対する抗体を産生させるための薬剤	薬品の一種で、細菌やウィルス・寄生虫による感染性疾患の予防を目的とし、生体に投与することにより感染性疾患に対する抗体を産生させる薬剤。人、家畜等に用いられる。注射・経口のルートによる。